カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

教皇来日公式記録 完成

教皇来日公式記録DVD【すべてのいのちを守るため～教皇フランシスコ来日の軌跡～】が完成しました。お申し込み期間や方法など、詳細はカトリック中央協議会の公式サイトをご確認ください。

新型コロナウイルスによる影響
教区の対応 この1年

昨年12月以降、新型コロナウイルス感染症が急激に世界中に拡大した。多くの感染者と死者が続き、今もなお収束・終息のめどは立っていない。日本では今年1月から繰り返し注意が呼び掛けられ、カトリック教会でも長崎教区を含む全教区が各地域の状況を鑑みてそれぞれに対応策を講じ、感染拡大が最も危惧された時期には「公開ミサ中止」の措置を取るなどしてきた。「ミサが中止」「通夜・葬儀に参列できない」「教会活動が休止状態」といったかつてない事態と経験は、ミサや祈りの大切さ、集まり共に活動することの喜びなどさまざまな気づきももたらしたといえよう。このような気づきとその感触を忘れないためにも、教区と教区内のあらゆる現場が〝やむなく〟取ってきたこれまでの主な対応を1年の終わりに以下に残す。

マスク着用など、現在も感染防止策を取って行われるミサ（10月12日司祭の日）

ミサに関する教区の対応

▼高見三明大司教が2月21日付通達「新型コロナウイルス感染症に関する注意」を発表▼2月29日(土)から3月15日(日)まで主日のミサを中止▼3月17日「日本の信徒発見の聖母ミサ」と3月20日「司祭助祭叙階式」は参加者を制限▼3月21日(土)夕方から主日のミサを再開。ただし、3月22日と29日の主日のミサの参加義務を免除▼4月3日付「聖週間を含め4月30日までの主日と週日の公開ミサを中止」。さらに4月8日付「公開ミサ中止〝厳守〟」▼4月7日聖香油ミサは司祭団のみで実施▼4月9日聖木曜日に長崎教区として初めて典礼祭儀をライブ配信▼4月24日付通達で、政府が発令した「緊急事態宣言」期間中は現状の対応を維持することを発表▼「緊急事態宣言」の5月14日「解除」（一部都道府県を除く）を受け、翌15日に大司教が「5月16日以降の主日・週日ミサなどの再開、教会活動の再開」を発表▼8月4日付「8月末まで主日ミサの参加義務の免除」▼8月22日付「免除が9月末まで延長」▼11月13日付「長崎大司教区新型コロナウイルス感染対策ガイドライン」（下記を参照）発表。

中止となった主な行事

▼5月3日 広島教区の津和野・乙女峠まつり▼5月4日 教区評議会総会（その後5月31日と9月21日に実施）▼5月10日 井持浦ルルド祭▼5月17日 雲仙殉教祭▼8月9日 平和祈願祭（浦上小教区主催として実施）▼8月15日 佐世保地区・聖母平和祈願祭▼9月20日 福者カミロ・コンスタンツォ神父殉教記念ミサ▼9月27日 聖トマス西と十五殉教者記念ミサ（中町小教区主催として実施）▼10月 島原・天草殉教祭▼10月25日 大村殉教祭（一部実施）。5月に予定していた全九州研究集会宮崎大会は21年に延期。6月予定の長崎解宗連総会は7月に延期し実施。

【エキュメニズム・諸宗教】朝祷会は中止（一部再開）。会議は中止。

【生涯養成】20年度「カトリック講座」「典礼講座」は中止。

【青少年】夏休み期間の高校生キャンプは中止。6月21日予定「第4回高見杯」は21年1月以降に対応。11月3～4日予定「長崎青年の日」は21年11月3～4日に延期。毎月1回の定例会議は6月以降中止。

【家庭】年3回の結婚講座と7月予定の「共に生きる学び」講演は中止。12月予定の家庭の日バス巡礼も中止。

【召命】5月の青年召命巡礼ウオークと7月27～28日五島市での召命親子キャンプは中止。

【典礼】毎年秋に開催している公開典礼講座は中止。6～11月予定だった「朗読奉仕者養成講座Ⅱ」は21年度に延期。

また信仰教育委員会では、家庭委員会が手掛ける教材の映像化に協力。

中止や延期となった各委員会の主な活動・行事

【平和推進】8月広島ピース・スタディー、沖縄平和学習は中止。

【福祉】手話講座は中止。ホームレス支援活動は一時中止の時期あり。2021年に予定していたカトリック障害者連絡協議会長崎大会は1年以上の延期。会議は中止。

【人権】外国語ミサは中止（状況に応じて実施）。ゆりの会の集いは中止

各委員会は、活動・行事の中止や延期があっても一部は会議にオンラインを活用するなどして話し合い、今後の活動について検討している。

日本の司教団が今年4月に発表した「新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り」もまた、共同体や個人で唱え続けられている。

人事異動・任命

（　）内は前任地

▼フランシスコ会（11月6日付）
アルベルト・マーフィル師　長崎修道院
（東京・聖ヨゼフ修道院）
ベラルド・ヤン師　長崎修道院　（　〃　）

コロナ禍でも 神学院の集い いろいろ

新たな召命のお恵みを願って
長崎カトリック神学院

10月24日（土）から25日（日）にかけて、長崎カトリック神学院で召命の集い（一泊体験）が行われた。

松田聡史院長は今回の集い開催にあたり、「新型コロナウイルスの影響下にあって、ずいぶん迷ったけれども、この集いが神学生の召命の直接的なきっかけとして毎年大きな力となっているため、感染防止に細心の注意を払いながら、神様のご加護も願いつつ開催に踏み切らせていただいた」と述べた。

今回の集いは、密を避けるため人数を制限しての集いとなった。長崎県内から小学生7人の参加があり、神学生と一緒にレクリエーションや祈り、夕食を共にし、神学院での一日の生活を体験した。

現在小神学生の人数は12人、うち長崎教区は9人（ほか福岡教区1人、大分教区2人）。来春は2年ぶりの卒業生が福岡コレジオへと巣立つ予定。新年度に向けて、一人でも多くの新たな召命が誕生するように、小神学生・養成スタッフ一同祈りと共に心待ちにしている。

神学院祭2020を終えて
福岡カトリック神学院

今年も11月3日（火）に福岡カトリック神学院で神学院祭が開催されました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、神学院史上初めてのユーチューブ生配信による神学院祭となりました。当日の様子はユーチューブにおいてどなたでもご覧になることができます。

当日はアベイヤ司教様司式による召命祈願ミサから始まり、オンラインならではの企画として、リモート版院内ツアーや神学生が出演したドラマの放送を行いました。

皆様のご支援のおかげで、成功に終わることができたと思います。ユーチューブのコメント欄や、実際に信者さんにお会いした際も温かい声をかけていただきました。

新型コロナウイルスという共通の問題に世界中が直面しています。神学院においても同様で、神学院祭の開催自体も危ぶまれましたが、こういう時だからこそ、自分たちにできることを考えた結果、このような形となりました。神学院祭をご覧になって、神学校の様子や神学生の素顔など楽しんでいただけたら幸いです。その上で、キリストが共にいることを感じていただけたらと思います。皆様の信仰生活の一助になれば光栄です。

長崎教区助祭
ナム・シジン

〝生配信〟された神学院祭の1コマ

カトリック長崎大司教区
新型コロナウイルス感染対策ガイドライン（抜粋）

以下のガイドラインを、教会ごとの具体策に生かしてくださるようお願いいたします。
2020年11月13日　大司教　高見三明

❶ 常に、第一に、ほかの人に対する愛と思いやりを心がけてください。「自ら感染しない」「ほかの人を感染させない」ように心がけることが重要です。手指の洗浄、消毒液の使用、マスク着用、席を空けての着席（家族の場合はこの限りではない）、手すりや席の消毒などの基本的なことを必ず守ってください。換気をよくするように努力してください。

❷ クリスマスから年末年始（12月24日～来年1月3日）にかけて、従来のミサ参加者制限をより厳しくする可能性があることをあらかじめ十分知れわたるようにしてください。

❸ 基礎疾患のある方、体調不良の方、感染の不安を強く感じる方などには、上記期間中の「降誕祭」、「神の母聖マリアの祭日」（元旦）および「主日」（聖家族と主の公現）のミサ参加義務を免除いたします。すべての人のいのちを守ることを優先させるためです。

❹ ミサ中の聖歌に関しては、歌の数を制限し、「会衆が歌う」場合大声で歌わないように注意してください。十分な距離をおいて独唱すること、互いの距離を保って聖歌隊が歌うこと、聖歌の代わりにオルガン演奏を行うことはできます。

❺ 人数制限などの理由でミサに参加できない方々には、「聖書と典礼」の朗読と黙想、「霊的聖体拝領の祈り」（『カトリック祈祷書』）とロザリオを唱えることを勧めてください。

なお、カテドラル浦上教会での大司教司式による「主の降誕 夜半のミサ」は、12月24日（木）21時からライブ配信（※）する予定ですので、教会でのミサに参加できない方々は、できればご一緒に心を合わせて主のご降誕をお祝いください。
※配信については後日、教区ホームページなどを通してあらためてご案内いたします。

ガイドライン全文は教区ホームページに掲載

ほしかげ

三位一体の神秘について、その三つの位格間における区別についての定義が確立する前の3世紀初頭、教父テルトゥリアヌスは、御父と御子の違いを、御父は「苦しみを共にした（compassus est）」方、御子は「（直接）苦しまれた（passus est）」方であると表現した▲神は本来何一つ欠ける所のないお方なので、その本性において苦しみを被るということはあり得ない。ところが御子は受肉によって肉体をご自身のものとされたので、その肉体において直接苦しみを被るお方となられた。一方で御父は肉体を持たないので直接苦しみの対象となることはないが、御子との本性的なつながりにおいて、苦しみを共有する方であると説明するのである。つまり御父と御子のつながりを「苦しみ」と表現し、その位格における区別を「苦しみへの参与の仕方の違い」として説明したのである▲現代のカテキズムが「唯一の神性、三位のペルソナ」と表現する神秘を、教父たちはどれほどイメージ豊かな言葉で表現しようと試みていることか。「神性」や「ペルソナ」という抽象概念の代わりに、「苦しみ」という経験を通して神を観想していたのである。いわば苦しむ他者を想って味わう痛みは、彼らにとっては神との一致の場でもあったのだ▲テルトゥリアヌスからおよそ200年後、聖アウグスティヌスは、御父と御子を結ぶ苦しみのその源泉こそ「愛」であると表現するのである。（通）

わたしたちが受けとったもの、伝えていくこと

教皇来崎からの始まり⑩（最終回）

風を待って
―このなまぬるさからの出立―

長崎大司教館　古巣 馨

問いと答えと、
いまあなたにとって必要なのはどっちですか。
（長田 弘『最初の質問』）

◆最期まで成長したい

「何を信じたらいいのでしょうか。いま教会で起こっていることを見聞きするにつけ、不信ばかりです。神父は端（はな）から信用していないと吐き捨てる息子に、どんな信仰を手渡せばいいのでしょうか」匿名で届いた手紙の行間に、言葉にできない霊のうめき（ローマ8・26）を聞きました。外圧は同じ思いを強固にします。でも、内からの不信は白蟻の巣くう家のように音もなく朽ち果てます。司祭・修道者の減少、若者の教会離れ、高齢化する主日のミサの風景。教会にすきま風が吹き始めて久しくなります。深刻なのは、こんな状況下でも瀬戸際の危機感もなく、問われているのにもう観念したかのような雰囲気。二人の教皇の訪日に、身震い一つもせず何にも変えられない自らのふがいなさ。

「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている」（黙示録3・15-16）叱ったり鍛えたりするのは、それでも愛しているからです。

1630年5月7日付、フィリピンはルパング島から発信されたペトロ岐部の手紙を、折に触れては読み返しています。「風を待っています。神からの恵みの風に、信頼という帆をいっぱい広げ、私たちは日本に向かいます」（キリストのしもべペドロ・カスイ）京都の大殉教、元和の大殉教、雲仙地獄の殉教…。向かうは血みどろの殉教の教会でした。難儀して調達した虫食いの船にそれでも帆をはって出立させたのは、「同胞の救いのために最期まで成長したい」（1620年11月21日付イエズス会入会時の上申書）との教会に対するたぎるほどの情熱でした。「キベヘイトロはコロビ申さず候。ツルシ殺され候」将軍家光の前で毅然と信仰を告白したペトロ岐部の最期を、礼を尽くすかのように宗門奉行井上政重はその調書に書き留めました。381年前に生まれたこの光を、私たちに仰がせてくれたのが聖ヨハネ・パウロ2世教皇でした。

◆東の空を指さした聖なる教皇

1981年2月26日氷点下4度の吹雪の中、市営松山競技場に早朝からまんじりともせず半日も立ち続け、殉教記念ミサに与った4万7千人の信者たち。祭服を脱ぐなり教皇は自らもかじかんだ手をこすりながら大きな声で労いました。「みんなよく頑張りましたね。それでこそ殉教者の信仰を受け継ぐ子孫ですよ」その一言で、凍え切ったみんなの頬に紅がさしました。血の通った父の言葉は、子を生き返らせます。一人の巡礼者として至福の丘に立った教皇は、長崎の教会に託された使命を語りました。「キリスト信者は長崎で死んでいきました。しかし長崎の教会は死ぬことはありませんでした。…キリストの教えは親から子に伝えられて、教会が公になる日を待っていました。この殉教の丘に基礎を置く長崎の教会はいずれ成長し、花を咲かせ、世界のキリスト信者に対して信仰と忠実の模範となり、復活したキリストの希望のしるしとなるはずです」と。

晩年預言者の風貌で「長い殉教生活」をおくったキリストと出会い直そうと呼びかけました（『紀元2000年の到来』37項）。とくにその道筋を期待したのが日本の教会でした。ペトロの墓参（アド・リミナ）に行った司教団を前に檄を飛ばしたのです。「日本の教会の最初の世紀は、殉教者の忠実な信仰と輝かしい証しによって飾られました。しかし、殉教者たちの証しは日本の教会の過去を飾るだけではなく、今の日本の信者たちの行くべき道を示し、明日の教会の使命と約束をも示しているのです」（2001年3月31日 日本司教団アド・リミナ）

かつて見た光を見失った教会は、聖なる人が指さした東の空の星に導かれ、あの幼子のいる場所（マタイ2・9-11参照）にたどり着きました。生月はガスパル西家族、有馬のレオ林田家族、島原のパウロ内堀親子、小倉のディエゴ加賀山と娘みや家族、京都のヨハネ橋本家族、米沢のルイス甘糟家族…。出会ったのはナザレの聖家族をなぞった「家庭教会」でした。そこには、闇の中を小さな光を掲げて先頭に立つ司祭と、疲れた者を抱いて最後尾に就く司祭がいました。長崎の教会はそのようにして育てられました。12年前（2008年ペトロ岐部と187殉教者列福）、頭上に輝いた星々はまだあなたを導いていますか。

◆そのように育てられました

振り向いたまなざしに、やさしさの深遠と猛禽類のような鋭さを見せた教皇フランシスコ。その場しのぎの薄っぺらな言葉が飛び交う時代に、福音から溢れ出たいのちの「言葉」は、うつむきかけた多くの人の心を射抜きました。

教皇フランシスコがこれまで著わした多くの文書に登場するマザー・テレサ。晩年背中は曲がって小さくなり、顔中に深いしわを刻んだ彼女にあるジャーナリストが尋ねています。「マザー、あなたはどうしていつも貧しい人を一番に選んで生きるんですか」彼女は懐かしそうに遠く見つめて答えています。「子どもの頃、週に何度か夕食のない日がありました。共働きをしていた両親が夕餉（ゆうげ）の材料を買って帰るとき、貧しい親子を見たらそのまま全部あげるのです。そして、言うのです。『今日はあの親子が食べる番です。それでいいよね』って。わたしはそのように育てられました。だから、こんな風に生きるのはわたしにとって自然なことです」

何のてらいもなく萎えた人をそっと抱きしめるのは、かつて自分が抱きしめられたからです。いざというとき、とっさに新しいことなど浮かびません。似たことをするだけ、してもらったことを真似るだけです。

「わたしが子どものころ、プロテスタントは皆地獄に行くと言われていました。アルゼンチンではプロテスタントの宣教師たちのテントを燃やした司祭さえいました。あれは1940年から42年のことです。わたしは4歳か5歳でしたが、祖母と町を散歩していたら、向こう側の歩道に救世軍の女性が二人いました、記章をつけた帽子をかぶって。わたしは聞きました、『ねぇ、おばあちゃん、あの女の人たちは誰？ シスター？』祖母は答えました。『あれはプロテスタントよ。でもいい人たちですよ』これが、わたしが聞いた最初のエキュメニカルな言葉です。……わたしの祖母は、エキュメニカルな多様性の扉を、わたしに開いてくれたのです。こうした経験を、わたしたちはすべての人に伝えねばなりません」（教皇フランシスコ／ドミニック・ヴォルトン『橋をつくるために』戸口民也訳）絶望の隣に座る希望の人フランシスコはそのように育てられた人です。「家庭教会」で育まれた信仰が、いま世界に光を掲げています。「教える」のではなく「伝える」ことによって育まれてきた長崎の教会。「伝える」言葉を「伝わる」かたちにするのが得意でした。わかりやすく、ときに笑いをまぶして。そうして幾つもの試練をかいくぐってきました。今また試練のときです。

◆あしたが楽しみ

「教会が今日最も必要とすることは、傷を癒す能力です。信じる人たちの心を温める力です。身近さと親しさです。教会は戦闘後方の野戦病院です」と言って教皇職を受けたフランシスコ。このなまぬるい長崎の教会が、もう一度その使命を果たす方法を示しました。「まず、じっと見つめるまなざしをもつことです」そうしたら、どんな人をも愛することができ、その人の中に神から受けたたまものも見つけることができます。人は「愛される」だけで救われるからです。すがるだけで変えていただけるのです」（日本司教団への挨拶）

アッシジのフランチェスコの「質素さの中の質素さ、単純さの中の単純さ」を、なまぬるさからの出立の心得とする教皇フランシスコ。本気でそこから出立した人のしるしは、神の愛と同じ波長をもった「いつくしみ」と「喜び」です。「慈悲の所作」を生きたキリシタンも同じしるしを携えていました。彼らにとって世の中の哀しみは、教会と自分の哀しみでした。

そんな記憶を刻んだ長崎の教会に教皇は期待しています。白けた無関心と闘って、「家族の一人が苦しめば家族全員がともに苦しむという自覚をもてるよう、力を合わせること」そのためには、「控えめで慎ましい生き方を選択することが求められています」（東日本大震災被災者との集い）

信仰から生まれた何気ない行いが、寄る辺のない人には命よりも大事な一生涯の宝になります。「今日は久しぶりに笑ったね。あしたが来るのが楽しみ」そんなささやかな人生の傍らに長崎の教会がありますように。何もしなければ立ち止まったままです。一歩踏み出せば一歩前に進みます。さあ、背を押してくださる風を待って。

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町 6-17　岩永ビル

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

CALIS Catholic Life Service
カリス通信 No.10
司祭医療費用共済制度、修道会医療費用共済制度のご紹介

カリスでは、カトリック諸機関のみを対象としたカトリックならではの独自のリスクやニーズに対応すべく、各種補償制度の開発や運用を行っております。今回は、各教区・修道会の聖職者の皆様を対象に、相互扶助の精神にもとづいた互助制度である「司祭医療費用共済制度」と「修道会医療費用共済制度」をご紹介いたします。

この二つの医療費用共済制度は、各種補償制度の中でも、各教区・修道会の皆様からいただいた声を反映させて、割安かつ加入しやすさを求めた共済制度です。

●本制度の特長
・補償：司祭、修道士、修道女、神学生に別途定める「カトリック共済制度災害補償規定」に基づいて、災害発生時に見舞金を給付します。
・対象：教区、修道会、在俗会、宣教会に在籍されている司祭、修道士、修道女、神学生などを対象とします。
・加入：各教区、修道会などの在籍組織単位で一括加入手続きとなります。

●お支払いする3つの給付金
・葬祭費用見舞金
死亡時に、教区、修道会や遺族が葬式・祭祀に要した費用を、死亡時の年齢に応じた限度額まで、実費給付します。
・傷害治療見舞金
ケガによる後遺障害、入院、通院時に、後遺障害の程度や、入院期間、通院期間に応じて給付します。
・疾病治療見舞金
病気による入院時に、入院期間に応じて給付します。

「司祭医療費用共済制度」、「修道会医療費用共済制度」は年間1名につき15,000円とご加入しやすい保険料です。また、加入時の面倒な告知は不要ですので各教区、修道会にとっても負担なくご加入いただけます。この機会に是非カリスまでご連絡ください。

私たちが、お守りいたします。
三條貴英　毛利玲子　杉谷英一
服部秀昭　大水文隆神父（顧問）

カトリック共済システム
有限会社 カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館　TEL：03-5632-4449　FAX：03-5632-4468
連絡先 0120-77-0033 http://www.calis.co.jp/
リスク・補償に関して何なりとお気軽にお問い合わせください
19-TC03967

核兵器禁止条約 来年1月22日に発効

すでに多くのメディアで報道されている通り、被爆75年の今年、核兵器の開発、保有、使用を全面的に禁止する国際法「核兵器禁止条約」を批准する国・地域の数が10月24日に「50」となった。これにより同条約は、来年1月22日に効力を持つこととなった。

カトリック教会の立場

核兵器に関しカトリック教会の立場は、バチカンが2017年9月に核兵器禁止条約を初めて批准した3カ国のうちの一つであることからも明らかだが、昨年11月に来日された教皇フランシスコによる長崎・爆心地公園でのメッセージでもはっきりと示されている。

「カトリック教会としては、民族間、また国家間の平和の実現に向けて不退転の決意を固めています。それは、神に対する、そしてこの地上のあらゆる人に対する責務なのです。核兵器禁止条約を含め、核軍縮と核不拡散に関する主要な国際条約に則り、たゆむことなく、迅速に行動し、訴えていきます。（中略）日本の教会では毎年八月に、平和に向けた十日間の平和旬間を行っています。どうか、祈り、合意拡大のたゆまぬ追求、対話への粘り強い招きが、わたしたちが信を置く『武器』でありますように。また、平和を真に保証する、正義と連帯のある世界を築く取り組みを鼓舞するものとなりますように」（2020年カトリック中央協議会、『教皇フランシスコ訪日講話集』核兵器についてのメッセージ）

〝被爆75年から5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

日本の教会の姿勢

2017年7月7日に国連で核兵器禁止条約が採択されてからこれまでの間、日本カトリック司教協議会は日本政府に対し、同条約に署名・批准するよう要望を伝え続けている。また今年7月7日には、広島教区・白浜満司教と長崎教区・高見三明大司教が運営委員として関わる「核なき世界基金」が創設され、核兵器廃絶を目指す個人や団体を支援するための寄付金を募っている。同基金の公式サイトによると、10月27日の時点で合計506万1394円が寄せられている。

カトリック教会が今後も、「核兵器から解放された平和な世界」（教皇フランシスコ）を目指し、対話を重ね連帯しながら歩みを進めていくことができるよう願う。

被爆75年記念冊子『きょうも鳴り響く平和の鐘』

高見三明大司教の著書『きょうも鳴り響く平和の鐘 ～被爆マリアと被爆十字架のメッセージ～』をお求めの方は、カトリックセンター内の教区本部事務局へ氏名・送付先・電話番号・部数を明記の上、ファックス（Fax095・842・4460）でお申し込みください。

1部500円。送料（着払い予定）と振込手数料は別途かかります。

《問い合わせ先》長崎教区本部事務局 TEL095・842・4450

リニューアル「原爆遺物展示室」公開

浦上教会信徒会館に改修設置

テープカットの様子㊦と浦上教会の歴史を物語る展示物の数々

原爆投下から75年の今年、浦上教会（久志利津男主任司祭）は信徒会館ロビーの被爆遺品展示場をリニューアルし、「原爆遺物展示室」として新たにオープンした。オープニング式典は11月1日（日）18時から、同教会の信徒らが見守り、子どもたちが歌う聖歌が流れる中、始まった。展示室は、高見三明大司教、長崎純心大学の片岡瑠美子学長ら関係者によるテープカットをもって、公開。祝福式の中で高見大司教は、被爆75年にあたり浦上司教座聖堂献堂記念日のこの日に展示室がオープンしたことを前置きし、次のように語った。

「多くの人々が原爆で亡くなり、被爆した人はその後も苦しみがありました。これらの遺物を見ることによって原爆の記憶を後世に残し、伝えていく。私たちは被害者としてだけの意識を持ってはいけないと思います。戦争の愚かさも考えなければなりません。日々の生活の中で、周りの人々と平和な、温かい関係を築くことを目指していくよう願います」

かつての展示場は、現在の信徒会館が1990年、信徒発見125周年記念のときに完成して以来、今の場所に設けられたもので、展示ケースの傷みや写真の色あせが目立っていた。さらに、遺物の陳列などについても、国内外の来館者が観覧しやすいような配慮が必要になっていた。

被爆しひどく損傷したキリストの磔刑像に大司教が灌水

リニューアル後の展示物は、浦上教会の歴史や被爆前後の写真を紹介したパネル、被爆した聖体顕示台やカリス、チボリウム、旧浦上天主堂の正面入り口上部に設置されていたキリストの磔刑像など。この他新たに、信徒家庭から寄贈いただいた被爆遺物のうち家庭祭壇で守られていた聖母像や小鐘（カンパヌラ）、司祭館で保管されてきた石造の天使像も展示された。表記や説明書きにはいずれも、日本語、英語、韓国語が付されている。

《開館時間》10時～16時（木曜日定休）、日曜・祝日は10時～15時。都合により閉館する場合あり。

司教座聖堂献堂を記念

浦上教会でミサ

長崎教区司教座聖堂（浦上教会）の献堂記念日である11月1日（日）18時30分から記念ミサが行われた。高見三明大司教の主司式、中村倫明補佐司教と8人の司祭の共同司式により、集まった人々が祈りをささげた。

大司教は説教の中で「教会は祈りの家」であることについてあらためて触れ、祝福され献堂された教会はすべて大切なものであること、特に司教座聖堂、カテドラルは教区の中心として大切なものであり、また司教を介して全世界の司教、ローマ司教である教皇とつながっていると語った。さらに、浦上教会が信者たちの大変な苦労と犠牲の末に建てられ、原爆によって破壊された後も、山口愛次郎司教の意向と共に多くの信者たちの熱意と努力で再建されたことを述べた。

最後に、「このように歴史を見ると、教会は信者の信仰の結晶、証しであります。今私たちはさまざまな問題を抱えていますが、そういう中でこの教会をいただいていることをまず感謝し、静かに祈ることができるお恵みを感謝したいと思います。イエス様を教会共同体の土台としてそのみ言葉をよく聞き、理解し、その意にかなった生き方をし、信仰を世の人に証ししていくよう努めましょう」と呼びかけた。

お知らせ

〈福岡教区から豪雨被害支援に対するお礼〉

7月九州豪雨の被害への支援として各教区・小教区や個人が福岡教区に寄付を送っていたことに対し、同教区から礼状が届いた。長崎教区は一菜募金から200万円を送金していた。礼状によると、寄せられた義援金は10月27日現在で6千万円を超え、これまでに430万円ほど支援することができ、今後も支援を続けていくという。

短信

〈堅信式〉

10月18日（日）、稲佐教会で中学生7人が、諫早教会で中学生8人と大人1人が、それぞれ堅信の秘跡にあずかった。

〈教皇への献金〉

昨年11月の教皇フランシスコ来日にあたり呼びかけられていた「教皇への献金」について、カトリック中央協議会は公式サイトの中で、寄せられた総額9177万887円を10月初め、教皇庁へ送金したことを公表していた。その後、献金に対して、教皇から礼状が届いたことが伝えられた。教皇から日本カトリック司教協議会会長・高見三明長崎大司教にあてて送られた礼状には、「日本の信者の皆さんが送ってくださった貧しい人々への献金を受け取り、大変うれしく思います」と、感謝と祝福の言葉が記されている。

感謝

―香典返し―

長崎カトリック神学院

●紙村しずよ様（相浦）故アグネス竹谷ヤエ様

●山下ヤスコ様（黒崎）故ミカエル山下一俊様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

新刊良書

★イエス―愛するために人となった神

著＝ガエタノ・コンプリ

キリスト教のはじまりである「イエス・キリスト」は一体どんな人物なのか。イエスのように生きるには、どんなことを大切にしたらよいのかを、聖書の中から探る。はじめてキリスト教に触れる人にもやさしいブックレット。新装改訂版。ドン・ボスコ社、税別500円。

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー(株)
代表取締役　ミカエル　溝口　晃
〒858－0926　佐世保市大潟町586
TEL(0956)47－4380

注文家具の店　家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
かおり
佳織木工所
kaori-mokkousho.com
《家庭祭壇ギャラリーOPEN　パンフレットもございます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956（23）1867
代表 ラウラ・ビクーニア 濱口　佳織

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844－4011
24時間営業　FAX(095)843－9896

黒瀬の辻殉教祭

「福者と共にミサをささげる恵み」

今年は、新型コロナウイルス感染予防の観点から殉教祭の規模を縮小し、山田小教区（岩下裕志主任司祭）の信徒約80人と平戸地区司祭団3人でミサがささげられた。

関係者は、「（コロナ禍で）さまざまなことが制限されている2020年、主日のミサも信徒が一同に会すことのできない中で、野外ミサだからこそ、久しぶりに小教区信徒が一つとなって共に聖歌をささげ、共に祈りをささげることができた。当たり前のことの尊さを実感し、分かち合える良い経験となった。この意味で今年の殉教祭は福者と共にミサをささげる恵みを特別に感じるものとなった。福者殉教者が示してくれた模範は、今という時代を生きる私たちにとって誇るべきものであるということを心にとめ、これからの信仰生活の励みとしていきたい」と話していた。

11月8日（日）14時、188福者殉教者の一員であるガスパル西玄可、ウルスラとい、ヨハネ又市家族の生誕地、そして殉教地でもある生月島では、黒瀬の辻殉教祭が、若干汗ばむほどの快晴の下、黒瀬の辻殉教碑公園（クルスの丘公園）で行われた。

自死された方々のための追悼ミサ

ゆりの会主催

11月7日（土）14時から、自死された方々のための追悼ミサが長崎北地区長・山脇 守師の司式により滑石教会でささげられ、約30人が共に祈った。新型コロナウイルスの影響下、開催が危ぶまれたが、関係者からの声に後押しされ実施となった。ゆりの会主催、教区人権委員会協力。

山脇師は説教の中で「（カテキズムには）人を殺すな、命は神から与えられたものだとありますが、大きな困難、苦しみの場合は責任が軽減されているので、神様にお任せして自死された方々のためお祈りいたしましょう」と語り、皆が理解し、受け入れ合うことの大切さも強調した。

主催者は「参加者からゆりの会の活動があまり知られていないという声もいただきました。そのことも念頭に置いて、毎年11月の死者の月に追悼ミサを行っていきたいと思います」と話した。

テレジア 田川ミツエ修道女

（お告げのマリア修道会）

10月8日逝去。87歳。1933年平戸市生まれ。50年田平修道院に入会。60年初誓願、77年終生誓願宣立。

保育士、園長として田平をはじめ五島、北松地区の施設で奉仕し、手品で子どもたちを喜ばせた。事業所引退後は共同体の調理に従事していた。5年前、腰椎骨折のために病院で治療、その後、老人施設のお世話になった。不自由な体で人生の仕上げの時を愚痴をこぼすこともなく、穏やかに苦しみの時を過ごした。

葬儀ミサ・告別式は10月10日、田平教会で行われた。

みことばにふれて 175

山内 啓輔 神父

（長崎教区司祭、ローマ在住）

「学者たちはその星を見て喜びにあふれた」（マタイ2章10節）

イタリアの気候は日本と同じように四季があり、しかもほとんど日本の四季の時期と同じですので、日本人からしたら住みやすい国の一つだといえると思います。ただ、日本には梅雨がありますが、イタリアでは10月から11、12月にかけて雨が多い時期となります。学期が始まるのも相まって10月は少し憂鬱な感情が芽生えます。

先日、朝から大学に行くときに、道の真ん中にいる一匹のカタツムリが目に入りました。授業が終わり、夕方にコレジオに帰ってくると、少しだけ端の方に進んでいました。次の日も、その次の日も少しずつ前に進んでいくその姿を見ながら、自分と重なって見え、応援していました。昨年度イタリア語を教えてくださった先生方が、皆さんはイタリア語に関して赤ちゃんみたいなものです。ゆっくり、ゆっくり、でも確実に進んで行くはずです、と励ましてくださっていたことを、そのカタツムリを見ながら思い出しました。イタリア語でほかの言語の授業（ラテン語、ギリシア語）を受けるのは、自分が想像していた以上に難しいです。しかし、それでもカタツムリのようにゆっくりでも前に進んでいることが分かれば、また頑張ろうと思えます。

これは信仰の面でも同じことがいえるかもしれません。最初から神様への完璧な信仰を持っている人などいませんし、これからも出てこないでしょう。しかし、教会共同体、またその構成員であるすべての信者一人一人は、神様に一歩でも近づくように、日々その歩みを進めていかなければなりません。何の努力もなく、進むことはありえません。日々の祈り、ミサやゆるしの秘跡などの典礼によって神様に心を向け、その心を知ろう、受け取ろう、語ろうとすることによって、端から見ると立ち止まっているかのように見えても、ゆっくりと、しかし確実に神様のもとへと進んでいます。

私が見た冒頭のカタツムリが最終的にどこに行き着いたか私には分かりません。多分カタツムリ自体も分からずに進んでいたでしょう。しかし、私たちは自分たちの歩みの先には3人の博士たちが行き着いたように、眩（まばゆ）い輝きを放つ星、私たちの救いがあることを知っています。その救いをもたらしてくださった幼子イエスに向かって、また一歩歩みを進めてまいりましょう。

「教区会計上の重大な不手際に関する問題」その後の経過について

カトリック長崎大司教区　司教総代理　中村 倫明
本部事務局長　中濱 敬司

「教区会計上の重大な不手際に関するお詫びとご報告」を『カトリック教報』9月号に掲載させていただきました。その後、お電話、お手紙、ファックスを通して多数の質問が寄せられました。そして、各地区の司祭と信徒の代表が集まる、9月21日の教区評議会臨時総会の中で理解を深めていただけるよう、質問内容を整理し、回答を準備しました。投資・貸し付けの目的や理由、その経緯、K氏との関わり、それぞれの責任問題、今後の具体的対応について、当該各位に答えてもらいました。ただ総会参加者からの質問を受ける時間が十分でなかったため、急きょ質問用紙を配布し、後日提出していただきました。それらの質問は10月4日の教区評議会役員会の中で紹介され、回答いたしました。なお、その内容は文書で各地区長司祭に配布されています。

また、総会の参加者からは、教区の対応に対して「具体性がなく不十分」との厳しいご指摘を頂きました。責任者の辞任の可否を問う質問に対して、髙見大司教は「監督者としての私の責任を痛感し、申し訳なく思っています。総辞職という道もありますが、私は、自分が辞任することでは責任をとることにはならないと考えています。むしろ、まずは教区会計の健全化・透明化を早急に推し進め、教区組織の在り方の再検討を図り、さらには司教と司祭の生活を刷新し、信徒の皆様の信頼回復に努めることが責任の取り方であると考えています」と答えました。

同時に、参加者から「この問題でこれ以上振り回されないためにも、教区の欠損として処理してはどうでしょうか。また、神父様方に欠損分の穴埋めをする必要はないと考えます。ただ全力で信徒の信頼回復に努めてほしい」との声も上がりました。

現在、重大な不手際による「不動産取得資金」の欠損分を埋めるため、当事者の自助努力ならびに大司教と教区顧問による負担分とは別に、教区司祭団に対しても寄付金の協力依頼を行いました。寄付金の動向につきましては、年に一度の教区会計報告の中でその状況をお知らせいたします。

また、会計上の再発防止に関しては、会計のシステムについて第三者の専門家による調査・提言を依頼し、12月上旬に教区経済問題評議会で話し合い、その後顧問会で審議して、再発防止策の徹底に努めてまいります。

以上、皆様のご理解を得るためには十分とはいえないかもしれませんが、9月以降これまでのところの経過ご報告とさせていただきます。

2020年11月10日